

## 敦賀発電所2号機のボーリング柱状図記載変更に係る規制検査の結果について（概要）

	概 要
規制委員会の判断	検査チームの報告をもとに、当社の業務プロセスの改善が図られていること、審査官を錯誤させる目的で <b>意図的に審査資料の書き換えを行ったことについては確認できなかった（恣意的ではなかった）</b> ことが示され、 <b>審査再開</b> を判断（2022年10月26日:第47回原子力規制委員会）
指摘事項	ボーリング柱状図に関する記載を以前の審査会合で示した記載から変更したこと
問題とされた点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初、ボーリング柱状図記事欄に記載していた肉眼観察結果を削除したこと</li> <li>・肉眼観察結果（元データ）を見直す時の社内での確認や手続き（業務プロセス）を明確に定めていなかったこと</li> <li>・審査資料の変更箇所を明示していなかったこと</li> </ul>
規制側の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規制検査を実施（2020年11月第1回会合～2022年10月規制委員会へ報告・終了）</li> <li>・審査を中断（2021年8月審査中断判断～2022年10月審査再開判断）</li> </ul>
再発防止策	業務プロセスの改善、品質管理（QMS）の強化、保安活動に関する教育の実施

### < 規制検査に至った経緯 >

- 2020年2月の第833回審査会合にて、規制委員会から以下の指摘を受けました。
  - ・当社が審査会合で提示した参考データ集「ボーリング柱状図・コア写真」に関し、当社がボーリング柱状図に関する記載を以前の審査会合で示した記載から**変更**したことについて指摘。
- 当社は、当初の肉眼観察結果よりも、顕微鏡で観察した薄片観察結果の方が、より確からしいと考え、ボーリング柱状図記事欄の記載を変更（書き換え）しました。その際、なぜ記載を変更（肉眼観察結果を削除）したのか、元データを見直す時にどのような手続きで行ったのかについて、十分な説明ができませんでした。
- その後の審査会合にて、ボーリング柱状図の元となるデータを示すなど説明を行いました。
- 2020年10月、規制委員会は、原因分析の妥当性について、審査とは別に、原子力規制検査の中で確認していくこととし、2020年11月から規制検査が行われました。